

ドイツにおける 子どもの ハンドボール 実施規則

DHB
Deutscher Handballbund

handball
training

handball
training
JUNIOR

2015/16年版

DURCHFÜHRUNGS-
BESTIMMUNGEN
für eine einheitliche Wettkampfstruktur
im Kinderhandball



試合構造を統一させるための解説と情報



全般的な方針

プレー方法に関する取り決め

観察の基準

試合の行い方

現場での実践方法

Handball



CONTENTS

はじめに	4
子どものハンドボールにおける 教育的方針	4
U-8、U-10、U-12のための枠組みの 取り決め	6
U-8	8
U-10	9
U-12	13

広い空間で積極的に人中心に守ることが、
この年代の子どもに適している!

子どものハンドボールにおいて、試合構造を統一させるための実施規則

本書は子どものハンドボールにおける試合構造を統一させるための実施規則(2015/2016年版)です。2015/16年のシーズンから、ドイツハンドボール連盟(DHB)に加盟する22の州協会すべてにおいて、U-8(ミニハンドボール)、U-10、U-12のカテゴリーで適用されます。青少年(U-14以上)の試合のために各州協会がとりまとめている実施規則は、2016/17年のシーズンからはじめて効力を発しますが、その前に現在の一貫指導コンセプトの内容が検討され、それに見合った新しいルールがDHBの該当委員会から公表されます。それまで、この年代の実施規則は、引き続き州協会の責任のもとで定められます。

子どものハンドボールにおいて、すべての参加者に共通する目標は、初めてプレーする子どもたちをハンドボールというスポーツに熱中させること、そして年齢と発達に適した練習内容と方法を通して彼らのゲーム能力を体系的に伸ばすことです。

広い空間で積極的に守り、それを攻めることは、子どものハンドボールにおいて上位の方針です。そうすることで初心者をハンドボールの核となる基本的な状況、すなわち1対1の状況の中で、彼らが持っているゲーム能力に応じて、年齢相応に成長させられます。

子どものハンドボールではゲームが優先されなければなりません。なぜなら、ゲームは常に学んだことを使う場であり、個々の創造性を伸ばすからです。試合は小さい子どもたちにとって「スープに入れる塩」です。もちろん子どもたちも練習試合や大会で勝ちたいと思っていますが、指導者は勝利至上になってはいけません。そのため、DHBは子どものハンドボールにおいて州レベルの選手権大会を適切でないと考えています。

子どものハンドボールに関わる皆さんへ

ハンドボールは絶え間なく発展しているダイナミックなスポーツです。この実施規則を試行した2年間、反対意見を含むさまざまな意見が出てきました。私はハンドボールの絶え間のない発展のために、生き生きとしたディスカッションが続くことを願っています。この実施規則では、これまで異なる経験をしてきたそれぞれの州協会が納得できるように、いくつかの箇所で見解を調整しています。それと同時に教育的な観点を義務づけてもいます。それは子どものハンドボールにおいて、すべての指導者が特別なお手本として重要な役割を演じるからです。

2015年1月 ドルトムントにて



ミハエル ノイハウス

ドイツハンドボール協会
指導委員会

- 原典：
DURCHFÜHRUNGS-
BESTIMMUNGEN
für eine einheitliche Wettkampfstruktur
im Kinderhandball
- 発行責任者：
Michael Neuhaus
- コンセプト：
コーチのための専門誌
[handballtraining]
[handballtraining junior]の
編集部との共同作業
- 構成：Lin Lütke-Glanemann
- 写真：Conny Kurth

はじめに

(1) 育成年代の選手一人ひとりを、ねらいを持って体系的に育成することが、我々の一貫指導コンセプトの明確な方針であり、それが長期的なハンドボールトレーニングに寄与する。

(2) その際、DHBが掲げている考え方は、この年代の防御プレー方法（マンツーマンまたは1：5防御）を規定することによって、ゲームにおいても基本的な枠組みが作られ、その中で子どもたちがさまざまなレパートリーを身につけ、プレーする自然な喜びのもとで年齢に適したゲーム能力を育成できるというものである。

ある1つの定められた防御隊形を戦術的に学習することは下位の目標である。



マンツーマン防御に対してフリーになる走りが、U-10とU-12における子どものゲーム能力を発達させる基本的な育成ポイントである。

子どものハンドボールにおける教育的方針

近年、子どもたちの生活世界は大きく変化した。最新の多くの調査は、生徒たちが運動不足やコーディネーション能力不足であり、さらには重大な健康上の問題を持っていることを示している。年齢と発達に適したハンドボールができるように、クラブの子ども・ユース部門では時代にあった対応が不可欠である。

重要：子どものハンドボールにおける練習内容、試合およびルールは、ユース年代と同じ基準であってはならない。

教育的方針のポイントは以下の通りである。

(1) 魅了させ、プレーする喜びを与える!

大人のハンドボールのように、最高のパフォーマンス、タイトル、勝利志向を、子どものハンドボールの方針にできないし、してはならない! プレーする喜び、勝敗を争う場合には仲間と共同する体験が、生涯にわたるスポーツ活動または心からハンドボールを好きになるための土台をつくる。

(2) 長いプレー時間を可能にする!

それぞれの子どもは、しかるべき時間、試合に出場しなければならない。このことは子どものハンドボールにおいて最も重要な条件である。(DHBは、すべての子どもができるだけ多くの時間、試合に出場できるように、ベンチに入る子どもの人数を制限すること、または子どもたちを複数のチームに分けて試合することをクラブに推奨している。)

(3) 年齢と能力に試合を合わせる

発達に適したゲームの基本原則は、ユースや大人のハンドボールのように、プレーするカテゴリーを年齢とパフォーマンスによって分けられないことである。パフォーマンスの低い子ども、発育の遅い子ども、他のスポーツ種目から転向してきた子どもが、すぐに、そしてプレッシャーなしにゲーム経験を積めることをクラブは保証しなければならない。

(4) 発達に適したゲームではゲーム能力と創造性が育成されなければならない!

子どもたちは、ポジションとプレー方法が固定された

積極的に守る：プレー方法の取り決め



積極的な防御は、育成年代のトレーニングのためのDHB一貫指導コンセプトの中に最初からある明確な方針である。これを、すべての練習と試合において実施するため、子どものハンドボールに関わるすべての人は守らなければならない。

積極的な防御は、以下のような多くの利点を持っている。

- それぞれの子どもに学習体験、成功体験をもたらす!
- 奥行きと幅のあるプレーをもたらす!
- コート中央でのプレーを促す!
- 消極的な防御での抽象的なスペースの割り当ての代わりに、パフォーマンスが同じくらいの相手プレイヤーと直接対峙(1対1)することを可能にする!
- 勇気とリスクに対する準備を兼ね備えた攻撃「タイプ」を創り出す!
- 自由で、創造的で、のびのびとしたプレーを可能にする!

「戦術的なコルセット」にはめ込まれていることがある。大人のハンドボールの防御戦術は、まったくの場違いである。子どもはゲームを制限なしに体験し、好きになるべきである。

(5) 試合は子どもの発達に適した練習内容を導くものでなければならない!

子どもとユースの練習のため、DHB一貫指導コンセプトは20年以上続いている。しかし、それぞれのクラブで完全に実施されているわけではない。発達に適したトレーニング内容は、試合がそれにふさわしい要求をしたときに初めて完全に実施される! (DHBは、U-10において、ハンドボール基礎技能テスト^(注1)を総合評価に加えて試合を行うことを推奨している。それを適切に実施することは州協会の義務である。)

(6) 教育的な目標：子どもとユース年代では全面的な人格形成が何よりも重要である!

DHBは他のスポーツ連盟に先がけて、一貫指導コンセプトに教育的な目標を明文化した。それは、自立すること、人格とスポーツ技能を伸ばすこと、ゲーム能力を発達に応じて、長期にわたって身につけることである。これらはDHBに登録しているクラブにおいて、子どもとユース活動での教育的な基礎コンセプトであるべきである。子どもとユースのハンドボールでは、そのコンセプトに合った試合を行わなければならない。

(注1)ハンドボール基礎技能テスト：運動の3要素である走・跳・投と、ハンドボールの基礎技能であるシュート・ドリブルなどの動作を組み合わせたテスト。テストは、動作経験を積むことが目的であるため、テスト内容は毎試合異なるものになっている。

U-8、U-10、U-12のための枠組みの取り決め

ゲーム理念

	試合の取り決め	大会の構成
U-8	<ul style="list-style-type: none"> ● コートを横に使った4対4のゲームが標準 ● それぞれの州協会で実証されたバウンドボールゲーム^(注2)が認められる ● ゴールの高さは1.6m ● ボールは0号球 	<ul style="list-style-type: none"> ● ゲームフェスティバル ● 試合結果や順位表なし ● 参加することを評価し、賞状やメダルなどを授与する
U-10	<ul style="list-style-type: none"> ● 6対6のゲームが標準 ● その他のゲーム形式 <ul style="list-style-type: none"> － 4対4のゲーム(初心者) － 2×3対3(半面に3人ずつを配置した6対6のゲーム) ● ゴールの高さは1.6m ● ボールは0号球 	<ul style="list-style-type: none"> ● 小さな大会(3チームで) ● 地区レベルでの大会
U-12	<ul style="list-style-type: none"> ● 6対6のゲーム ● ゴールの高さは2m ● ボールは1号球 	<ul style="list-style-type: none"> ● 個別の試合 ● 大会形式も可能 ● 州の選手権はなし

プレー方法の取り決めが守られない場合の審判方法

U-8では制限や規準のない自由なプレーがなによりも重要である。

この実施規則はU-10とU-12のチームに、防御プレー方法を規定する取り決めを含んでいる。

- U-10で許されている防御プレー方法はマンツーマン防御のみである。その際、マンツーマン防御をコート全面または自陣の半面で行うかは、チームの判断に委ねられる。
- U-12で許されている防御プレー方法は、U-10と同様のマンツーマン防御と、1：5防御(積極的で人中心のゾーン防御)である。

(注2)バウンドボールゲーム：ボールをバウンドさせてゴールラインを超えると得点とするリードアップゲーム。

▶ ボール獲得志向 ▶ 積極的で活動的

年齢特有のプレー方法	年齢特有のルール	ハンドボール 基礎技能テスト
<ul style="list-style-type: none"> ● ボールをもつての自由なプレー、ボールに関わる自由なプレー ● ゴールに向かうプレー 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教育的に審判を行う ● 退場なし 	<ul style="list-style-type: none"> ● 行わなければならない ● ゲームフェスティバルにおける室内アスレチックコース^(注3)
<ul style="list-style-type: none"> ● コート全面でのマンツーマン防御 ● 自陣の半面でのマンツーマン防御 	<ul style="list-style-type: none"> ● 個人的な退場のみ(チームの人数は減らさない) ● 反則ごとにペナルティースロー 	<ul style="list-style-type: none"> ● 推奨する ● 総合評価に加えた実施が認められる
<ul style="list-style-type: none"> ● マンツーマン防御 ● 低いポジションでのマンツーマン防御 ● 1:5防御 ● 個別のマンツーマン防御はなし ● GKはセンターラインを越えられない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 個人的な退場のみ(チームの人数は減らさない) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 定めない

審判はU-10とU-12での取り決めに遵守させる責任を持っており、そのための方法を自由に使うことができる。

制裁処置は州協会の責務である

取り決めが守られない場合の制裁と段階的な処置について、各州協会はこれまで、さまざまな実践的なモデルを開発してきた。それは運用上有効であると実証され、審判も知っている。そのため防御プレー方法の取り決めが守られなかった時の処置については、ここでは触れない。それに関しては、各州協会がそれぞれの実施規則で定めている。

(注3)室内アスレチックコース：多様な動作経験を積むための障害物コース。

U-8



取り決め

- コートを横に使った4対4のゲームとゲームフェスティバル/アスレチック
- バウンドボールゲームが認められている
- 室内アスレチックコース
- 自由なプレー
- ミニハンドボールゴール (安全に設置された)、または通常のゴールに器具をとりつけた、高さ1.6mのゴール

子どもに適した実施に対する解説

- 子どもの(ゲーム)体験に重点を置く。その際、子どもたちをすべての側面(指導者、審判、運営主催者、両親、観客)からポジティブに支援しなければならない!

重要: 個別の試合ではなく、いくつかのチームで大会を実施する。イベント(ハンドボールフェスティバル)という特徴を強調し、子どもたちが室内アスレチックコース/障害物コースを利用できる機会を保証する。

- 戦術的な約束事がない自由なプレー。ボールの獲得に重点を置く。

ゲーム指導のヒントと推奨されるゲームの取り決め

- 審判は、教育的に笛を吹き、説明したり、教えたりする。場合によっては注意をしなければならないが、処罰してはならない。
- ベンチに入る選手数の決まりはない。どの子どももプレーできるようにしなければならない。選手数が多い場合には、いくつかのチームを作り(場合によってはゲームの当日に!)、子どもたち全員が十分にプレーできるようにする。
- 男子と女子は一緒にプレーする。
- 選手証は必要ない。しかし保険契約の観点からクラブへの会員登録は不可欠である。
- 順位表は作成しない。またトーナメントも行わない。すべての子どもたちが勝者である。

コートを横に使った4対4のゲーム



U-10

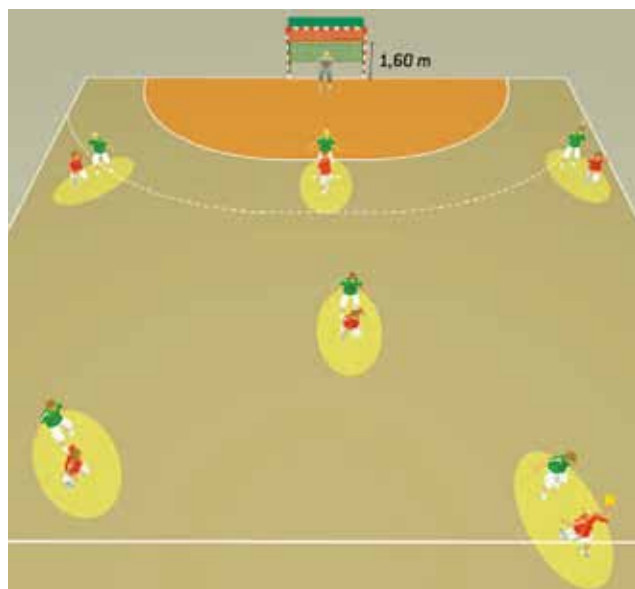
取り決め

- 6対6のゲーム：コート全面または半面でのマンツーマン防御
- 追加される形式
 - －コートを横に使った4対4のゲーム（初心者のため）
 - －2×3対3のゲーム（半面に3人ずつを配置した6対6のゲーム）（10ページ参照）
- 7mスローではなくペナルティースロー
- ゴールキーパーはセンターラインを越えられない
- ゴールの高さは1.6m、ボールは0号球



解説

- 自陣のフリースローライン（9m）より外で、最低でもコート半面に選手を配置する。
- 選手を明確に割り当てる。一人の攻撃プレイヤーに対して一人の防御プレイヤー（右図）。
- フリースローラインの中に入っていく攻撃プレイヤーはそのままマークする。
- 取り決めが守られない場合、審判は州協会が定めている制裁に関する規則に従う。
- 総合評価にハンドボール基礎技能テストを加えることを推奨する。（各州協会の実施規則に従う）



防御プレー方法の取り決め：マンツーマン防御



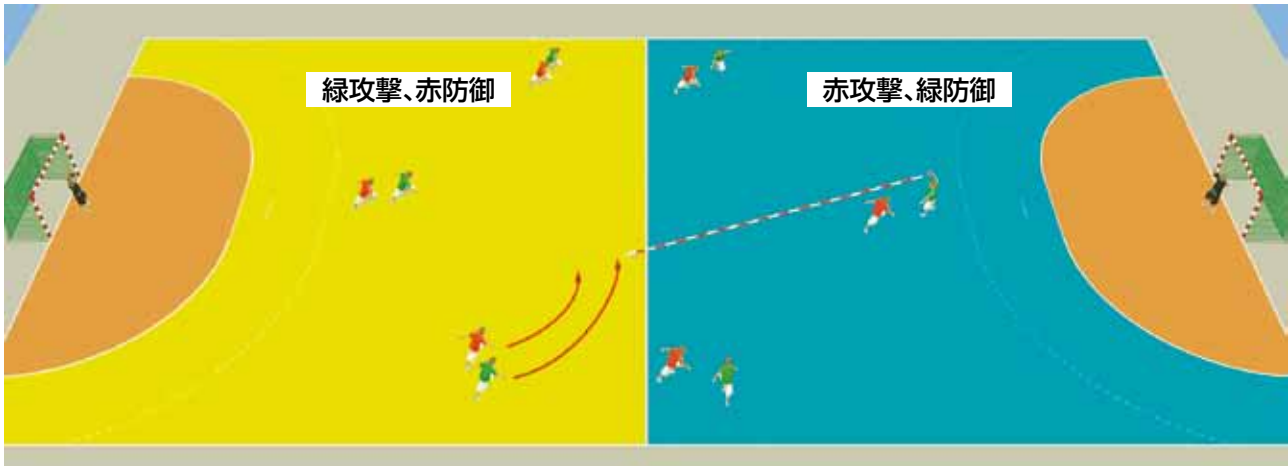
観察基準：

原則的にU-10においてはさまざまなバリエーションのマンツーマン防御で守ることができる。

- コート全面でのマンツーマン防御
- センターラインまでのマンツーマン防御
- フリースローラインの中に入っていく攻撃プレイヤーに対してはそのままマークする。
- 選手を明確に割り当てる。1人の攻撃プレイヤーに対して1人の防御プレイヤー（選手のペア）

重要：ゾーン防御（6：0、5：1、4：2防御）による消極的なプレー方法や個別のマンツーマン防御（5：0+1、4：0+2防御）は禁止。

2×3対3のゲーム



選手の配置と進め方

2つのチームは、通常の選手数(6人のコートプレイヤーと1人のゴールキーパー)でプレーする。コートを半面に分け、それぞれのチームに攻撃コートと防御コートを割り当てる。それぞれのコートに、各チーム3人ずつのコートプレイヤーが入る。片方のコート(図の黄色コート)では、赤チームの防御プレイヤー(3人)と緑チームの攻撃プレイヤー(3人)がプレーする。もう片方のコート(青色)では、緑チームの防御プレイヤー(3人)と赤チームの攻撃プレイヤー(3人)がプレーする。

ゲームのルール

- いずれのコートでもマンツーマン防御でプレーする。
- 誰もセンターラインを越えられない。

- ゴールキーパーがボールをゴールエリアからスローし、ゲームを始める(相手の得点の後も)。ゴールキーパーは、自陣にいる味方防御プレイヤーにパスし、防御プレイヤーは攻撃側のコートにいる味方にパスをする。
- 相手プレイヤーは、ゴールキーパースローの際にゴールエリアラインとフリースローラインの間に入れない。
- ゴールキーパーは攻撃側のコートに直接パスできる。
- 攻撃側のコートから防御側のコートへバックパスしてもよい。
- 選手交代は、2つの交代エリアで行える。交代エリアはチームではなくそれぞれのコートに割り当てる。
- 指導者は、すべての選手が攻撃プレイヤーとしても防御プレイヤーとしてもプレーすることに配慮する(ローテーションさせて)。

U-10における取り決め

- U-10では、勝利志向のプレー方法に大きな舞台を提供しないように、最も小さな運営組織のレベル(地区レベル)で大会を行う。U-8のように、トーナメントを実施しなくてもよい。
- しかし、大会で設定された試合は行わなければならない。
- プレーするカテゴリーは、能力によって調整する。初心者や練習をしていない子どものために、例えばU-10特別階級を作ることができる。そこでは、引き続きコートを横に使った4対4のゲームを大会形式で行い、コート全面でのマンツーマン防御でプレーする。それぞれの子どもが特別階級でプレーするかどうかは、責任者がシーズン開始前に子どものパフォーマンスを評価して決める。それと並行して、経験者(上級者)と一緒に通常のコートでゲームすることもできる。この年齢カテゴリーにおいて、パフォーマンスの成長には個人差がある。カテゴリーは柔軟であるべきで、同一年齢内において、カテゴリー間の選手の移行ができるよ

うにしておかなければならない。

- 男子と女子は一緒にプレーできる。
- マンツーマン防御の割り当てを説明するために、いずれのチームも前半、後半にタイムアウトを取ることができる。
- できるだけ個別の試合を避け、大会形式で試合を行う。
- U-10では体格差があるため、また技術的に間違ったシュート動作の獲得を避けるため、ゴールの高さを低くする。これについては、ミニハンドボールゴール(安全に設置!)または通常のゴールを1.6mの高さにするための器具を使用する。
- ボールは0号球。ボールの外周は46cmから48cmで、重さは260グラムまでである。0号球に制限することで、子どもはボールをしっかり握れる。このことは間違いのない投技術の前提条件である。
- 2×3対3のゲーム。その実施方法は「プラクティス」を参照。
- 7mスローではなくペナルティースロー(11ページ参照)。

ゴールへの装着器具に関する助言



安全第一!

ゴールへの装着器具を決められた通りに設置したこと、器具を装着してもハンドボールゴールが安定して立っていることを確かめる!

過去にゴールが転倒し、大きな怪我が発生した事故があった。そのためゴールは地面または後ろの壁に固定しなければならない。そうすることでゴールは転倒もずれもしなくなる。

7mスローではなくペナルティースロー

相手のルール違反によって得点チャンスを失った時、通常は7mスローが行われる。本来7mスローは、与えられたチームにとって得点チャンスであるべきだが、U-10の選手の多くは、7mスローに必要なシュートスピードや正確性を持っていない。そのため7mスローではなくペナルティースローを実施する。

ペナルティースローの実施方法

ボールを持った選手は、中央の細長いゾーン（左右のゴールポストの幅の想定ゾーン）内で、任意の距離からゴールに向かってスタートする。選手はオーバーステップに注意して、ドリブルあり（1回／複数回）（連続写真1）、またはドリブルなし（連続写真2）で助走し、ゴールエリアラインとフリースローラインの間からステップシュートを打つ。シューター以外の選手は、全員中央のゾーンの外側に立っておく。

連続写真1



連続写真2



U-8とU-10のマンツーマン防御から…



…U-12の積極的な1：5ゾーン防御へ



U-12

取り決め

- 6対6のゲーム(その他の形式なし)
- マンツーマン防御
- フリースローラインの外側で低いポジションでのマンツーマン防御
- 1:5防御隊形(初めての積極的なゾーン防御)
- 個別のマンツーマン防御は行わない(数的不利においても)
- ゴールキーパーはセンターラインを越えられない



プレー方法に関する取り決め:

マンツーマン防御から初めての積極的なゾーン防御へ

U-12では、最初はマンツーマン防御が、コート全面またはセンターラインまでで行われる。しかし、今までの経験から、マンツーマン防御から積極的なゾーン防御(1:5防御)に直接移行することは難しい。

低いポジションでのマンツーマン防御(基本原則: どの防御プレイヤーもボールよりも前で防御しない。ボールなしの1対1ではボールの高さまで下がる)は、その中間段階としてとてもよい方法である(「インフォメーション6」参照)。というのは、カバーやフォローのような重要な要素が現れるようになるからである。

引き続き1:5ゾーン防御では、原則として、積極的に守らなければならない。フリースローラインの内側で防御プレイヤー全員が基本隊形を作るとは禁止である。フリースローラインの内側へ走り込む攻撃プレイヤーに対しては、ついて行ってもよい(「インフォメーション8」参照)。バックコートでボールを持っている攻撃プレイヤーに対しては、フリースローラインの前付近でプレッシャーをかける。

「インフォメーション7」は、マンツーマン防御から積極的なゾーン防御への道のりについての要約である。

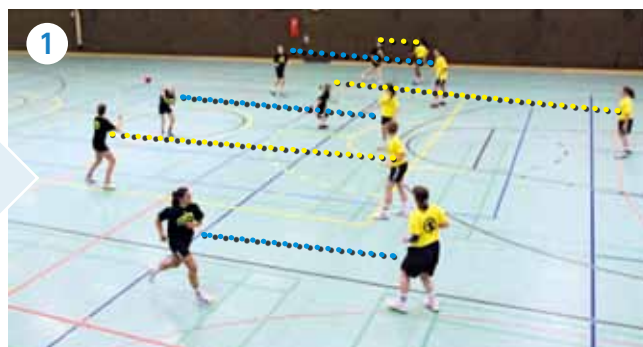
低いポジションでのマンツーマン防御の機能

① 防御プレイヤーは遅くとも自陣の交代ラインの高さでそれぞれがマークする相手プレイヤーを決める(写真①)。

② 防御プレイヤーは原則的に相手プレイヤーと自チームのゴールの間で守る。

③ 防御プレイヤーは自分がマークする相手プレイヤーとボールを観察しなければならない。

④ 防御プレイヤーはボールを持って突破してくる隣の攻撃プレイヤーに対してカバーしなければならない(写真②)。

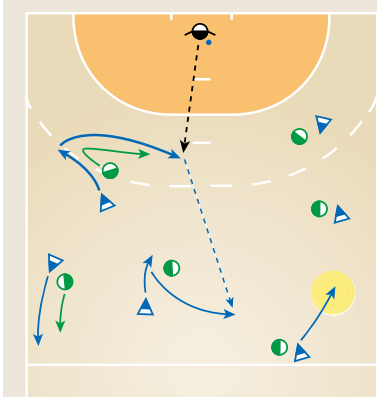


1) Entnommen aus dem Beitrag von Klaus Feldmann: Die sinkende Manndeckung. Zeitschrift handballtraining Junior Heft 1/2012, Seite 32-41.

マンツーマンからゾーン防御への道のり

第1段階

コート全面でのマンツーマン防御



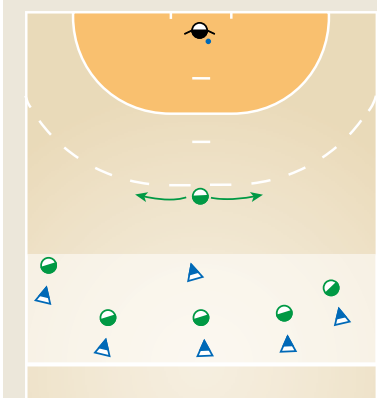
- ボールを失った直後、防御プレイヤーは自分がマークする相手プレイヤーを探す
- それぞれの防御プレイヤーはポジションやボールのある場所に関係なく、自分がマークする相手プレイヤーを守る
- 攻撃プレイヤーと防御プレイヤーの関係は常に固定させる

利点

- 選手の割り当てが簡単。というのは、それぞれの防御プレイヤーの競技力に応じて割り当てが決まるからである
- 広いスペースでの学習体験
- ボールの獲得に重点を置く
- 攻撃から防御へ素早く切り替える
- U-10から始まるマンツーマン防御の簡単なバリエーション

第2段階

センターラインまでのマンツーマン防御



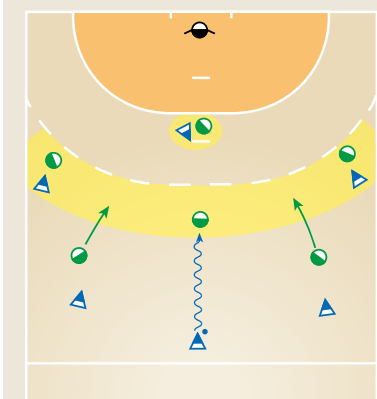
- ボールを失った後、防御プレイヤーは全員センターラインを越えて走って戻る
- センターラインを越えてから相手プレイヤーの割り当てを行う
- **リベロ・バリエーション**：一人の防御プレイヤーが味方プレイヤーの後ろで突破してくる攻撃プレイヤーを守る(左図)
- その後、リベロはフリースローラインの中へ走ってくる相手プレイヤーを受け取る

目的

- センターラインはすべての防御プレイヤーにとって、明確に定義されたラインであり、学習の手助けとなる。それによって攻撃プレイヤーの割り当てがよりうまく行える
- ボールあり、またはなしの1対1は、フリースローライン付近のより狭いスペースでプレーされる

第3段階

低いポジションでのマンツーマン防御



- センターラインを越えた後、まず自陣のハーフコートで攻撃プレイヤーの割り当てを行う
- ボールをもっていない選手をマークする防御プレイヤーはボールの高さまで下がる。このポジションで防御プレイヤーはカバーし、フォローすることができる

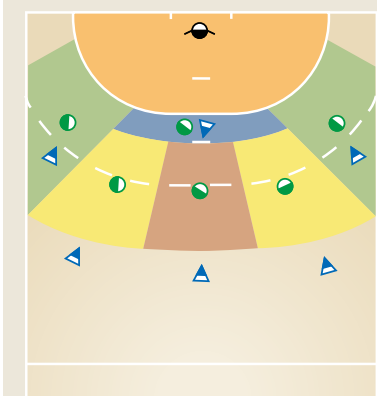
重要： 防御プレイヤーはだれもボールよりも前(の高さ)で守らない

目的

- 幅を狭く、奥行きを小さく、スペースに密集する
- 防御プレイヤーの連携を一層強める(カバー、マークのチェンジ)
- 1：5防御への流れるような移行が生じる

第4段階

ゾーン防御：1：5防御



- 防御プレイヤーはマークする相手プレイヤーだけでなく、ゾーンに対して責任を持つ(左図)
- このゾーンにいる相手プレイヤーを守る
- 攻撃プレイヤーが他のゾーンへ移動するとき、可能であれば受け渡しをする

目的

- それぞれのゾーンにおいて、特にサイド、ハーフおよびトップディフェンダーは、積極的・活動的に守る
- 防御の中心的な目的はボールの獲得である
- 防御プレイヤーの連携は、広いスペースにおいて引き続き養成される

1:5 防御におけるプレーの観察基準

基本隊形



1:5防御において、5人の防御プレイヤーはフリースローラインより前の高いポジションで、積極的、活動的、人中心に守る。1人の防御プレイヤーはポストプレイヤーに対して人中心に守る。フリースローラインの内側で防御プレイヤー全員が基本隊形を作ることは禁止。



5人の防御プレイヤーはフリーラインの高さで最初のポジションを取ってもよい。ボールを持ってゴールへと向かう攻撃プレイヤーに対しては、バックコートで積極的、攻撃的に守り、プレッシャーをかけなければならない。

禁止



特定の攻撃プレイヤーを継続的に密着してマンツーマンで守ること、または数名の相手プレイヤーをマンツーマンで守ることは禁止。

禁止



左写真とこの写真では、ひとりの防御プレイヤーが左バックプレイヤーを継続してマークし、パスが入らないように守っている。このような個別のマンツーマン防御は禁止。

活動的な防御：パスコースをブロックする



原則的に防御プレイヤーは基本ポジションから活動的に攻撃プレイヤーにプレッシャーをかけなければならない。左バックプレイヤー (LB) がボールをキャッチした際に、トップディフェンダー (CF) は積極的な基本ポジションでプレーする。



その後、トップディフェンダーは不意をついてセンタープレイヤー (CB) をマークに行き、瞬間的に彼へのパスコースをブロックする。左バックプレイヤーは長い (飛ばしの) パスを出さなければならないが、それは防御プレイヤー (左ハーフ (LH)) がインターセプトする。このような瞬間的に行う活動的な防御プレー方法は、個別のマンツーマン防御と混同してはならない。

移行：攻撃プレイヤーについていく



この状況で、左バックプレイヤーはセンタープレイヤーにパスした後、フリースローラインの中へボールを持たずに走りこみ、2番目のポストプレイヤーのポジションを取ろうとしている。



フリースローラインの中へ走る攻撃プレイヤー (バックコートまたはサイドからの移行) には、ついて行ってもよい。防御チームはその後、積極的な2:4防御を行ってもよい!

ドイツにおける子どものハンドボール実施規則

試合構造を統一させるための解説と情報 2015/16年版

翻 訳 者：中山紗織(筑波大学大学院体育学専攻)
 會田 宏(筑波大学体育系)

発 行 者：公益財団法人日本ハンドボール協会
 〒150-8050 東京都渋谷区神南1-1-1岸記念体育館内
 電話 03-3481-2631(代表)

発行年月日：2016年10月12日

印 刷：株式会社イセブ
 〒305-8574 茨城県つくば市天久保2-11-20
 電話 029-851-2515

非売品
